

2022年度 横浜市立大学附属市民総合医療センター麻酔科専門医研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としつつ、そこから発展して集中治療・救急医療・疼痛・緩和医療などの領域もカバーしながら、患者の命を守り、安全で高品質な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科専門医の使命は大きく2つある。

1つ目は、手術という治療目的の重度外傷に対するさまざまな生体反応をコントロールし、患者さんを守りながら手術を可能にするとともに、その侵襲からの生体の速やかな回復を支援することである。この目的のために、手術中の麻酔はもとより術前、術後にも、最高の技量と知識を使い、細心の注意を払って診療を行う。

2つ目は、周術期の専門知識と技量を応用し、集中治療、救急医療、ペインクリニック、緩和医療などの分野でも、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供することである。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

【概要】

横浜市立大学麻酔科は、神奈川県麻酔科医の半数近くが所属する麻酔科として、日本専門医機構の専門医制度開始より10年以上前から、教授の後藤が修了したアメリカの麻酔科レジデントプログラムを参考に、専門領域も含め豊富な症例数を万遍なく経験できるよう、独自の教育プランを動かしてきた。

専門研修プログラムを作成するに当たっては、専攻医一人一人の希望も取り入れ、将来のさまざまな方向性に対応できるよう、これまで行ってきた教育プランのさらなるレベルアップを図った。

具体的には、

1. サブスペシャリティー領域を中心に病院群を充実させた。(特に心臓血管、小児、産科、ICU)
2. ワークショップやハンズオン、カンファランスなど、教育的な活動を増加させ、高い水準の学習の機会が容易に得られるようにした。
3. 専門研修プログラム以降のサブスペシャリティー研修(フェローシップ)を充実させ、専門研修プログラム中に前倒しスタートできるようにした。
4. 全国初のデータサイエンス学部を有する大学として、臨床統計学や臨床疫学を修めた指導者を麻酔科内に擁し、専攻医研修中から質の高い臨床研究ができる。2020年度新設のヘルスデータサイエンス大学院への進学も歓迎する。

なお、麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている。

本プログラムは、横浜市立大学附属病院麻酔科専門医プログラムとほぼ同一の研修内容であり、基幹施設のみが異なっている。

【特徴】

1. 神奈川県という、比較的狭い地域内で研修が完結できること。（連携病院は一部、県外にもあるが、勤務は必須ではない。）下図に、本プログラムの病院群を示す。



2. 希望者全員が小児病院と専属チームの管理するICU（クローズドICU）で研修できること。
3. サブスペシャリティの研修施設が充実していること。例えば心臓血管外科麻酔は川崎幸病院、大和成和病院という神奈川県下で1、2を争う症例数を誇る病院や、日本最大の循環器専門施設である、国立循環器病研究センターと連携している。ペインの分野では、全国に20か所しかない集学的慢性痛管理センターが横浜市大附属市民総合医療センターに設置され、世界最先端の治療を行っている。
4. 教育活動が手厚いこと。ご遺体を用いた神経ブロックや経食道心エコーの理解のための解剖学講習、麻酔下の豚を用いた神経ブロック、胸腔穿刺、外科的気道確保等の実技Wet Labや人工呼吸管理セミナー、ABCD Sonography（ベッドサイドで心、肺、気道などを素早く診察する超音波検査）などが毎年計画的に行われている。
プログラム全体のカンファレンスとしては、集中治療カンファレンスが概ね6か月に1回、心臓血管外科麻酔カンファレンスが概ね3か月に1回、麻酔全般の講演会が年数回開かれている。
その他、施設ごとに勉強会や文献抄読会を行っている。例えば基幹研修施設である横浜市立大学附属病院では、抄読会は毎朝、専攻医向けレクチャーは適宜行っている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

【基本的なローテーションの方針】

- 研修の前半2年間は、厚生労働省麻酔科標榜医の取得を目標とし、横浜市大附属病院および横浜市大附属市民総合医療センターと連携施設で、成人の心臓外科手術、脳神経外科、呼吸器外科、帝王切開を含む一般麻酔の修練を行う。専攻医の間で経験症例数（特に専門分野の麻酔の経験症例数）に大きなばらつきが出ないように、半年から一年で病院をローテーションする。
- 研修の前半2年間で、開胸術、開頭術、帝王切開術について、整備指針が求める最低症例数をクリアする。開心術についても2年目終了時での最低症例数クリアを目標とするが、開心術は難易度の高い症例が多く、2年目での完全習得が難しいため、一部、3年目と4年目に行う。
- 3年目はICU研修/小児専門施設研修を3～6ヶ月行う。
- 4年目は、手術麻酔の経験をさらに積むコース、心臓血管外科麻酔、産科麻酔、小児麻酔、区域麻酔、ペインクリニック、ICUなどの麻酔科サブスペシャリティをさらに専攻するコース(フェローシップ)、臨床麻酔を行いながら、臨床研究に従事するコース等を希望に応じて研修する。これらのコースは、5年目以降も継続したカリキュラムを組んでいる。
- 研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように、ローテーションを構築する。

【労務管理】

- 勤務時間は、タイムカード等で施設毎に管理する。原則として、当直は月4回程度までとしている。一部病院や集中治療部などでは、シフト制を導入している。
- 専攻医との面接・アンケートによる聞き取りを最低年1回ずつ行い、心身の健康状態について問題がないか確認している。

【研修期間中にフルタイム勤務ができなくなった場合の対応】

- 出産、育児、その他の理由でフルタイム勤務ができなくなった場合、時間短縮勤務や当直免除等の配慮が法律に基づいて行われる。しかしながら、当直免除や時間短縮勤務は、緊急手術や長時間大手術、ICU当直の経験が減り、研修効果が下がってしまうことがある。専攻医の先生方は、フルタイム勤務に復帰した際に十分な研修を積む必要がある。横浜市大麻酔科は勤務継続およびフルタイム復帰のためのノウハウを蓄積しており、専攻医に対し適宜相談を行っている。
- 3年目までに出産や育児、その他の理由で時間短縮勤務等となり、専門分野の症例数が学会の要求数に足りない専攻医に関しては、4年目にそれらを補うプログラムを組む。4年目までの研修内容が不十分と判断される場合、研修修了を延期する。

【リサーチマインドおよび学術活動】

- 専攻医は、学会への症例報告はもとより、各施設で指導医の行う臨床研究に積極的に参加し、その成果を研究への貢献度に合わせて学会発表や学術雑誌への投稿を行うことを推奨する。横浜市立大学麻酔科は、科研費の過去5年間の新規採択累積件数が平成27～29年度の3年連続で全国トップと（文部科学省公開データ、30年度以降はデータが公開されていません）、麻酔科学の研究が日本一盛んな大学である。
- プログラムに参加する大多数の病院で、日本麻酔科学会学術集会中は手術数が絞られるので、専攻医は優先的に学会に参加できる。その他の学会にも積極的な参加を期待する。実績として、特にヨーロッパ麻酔学会には横浜市立大学から毎年演題が採択され、専攻医も含めて多数参加している。

【医療倫理等の研修計画】

- 専攻医は、配属先の病院で行われる医療倫理、医療安全、感染対策等の講演会やe-learningを受講することが求められる。また、日本麻酔科学会をはじめとする学術集会で行われるこれらの講演会に積極的に参加することを推奨する。



<研修実施計画例>

	A (標準)	B (心臓麻酔)	C(小児)	D (集中治療)	E (ペイン)
初年度 前期	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター
初年度 後期	藤沢市民病院	横須賀共済病院	横浜市民病院	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜南共済病院
2年度 前期	附属病院	附属病院	横須賀共済病院	附属病院	大和成和病院
2年度 後期	横浜市大附属市民総合医療センター	横浜市大附属市民総合医療センター	附属病院	川崎幸病院	附属病院
3年度 前期	神奈川県立こども医療センター	横浜市大附属市民総合医療センターICU	千葉県こども病院	静岡こども病院	附属病院ICU
3年度 後期	横浜市大附属市民総合医療センターICU	千葉県こども病院	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センターICU	埼玉県立小児医療センター
4年度 前期	横浜市立市民病院	国立循環器病研究センター	神奈川県立こども医療センター	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センター (ペイン)
4年度 後期	横浜市立市民病院	国立循環器病研究センター	神奈川県立こども医療センター	附属病院ICU	横浜市大附属市民総合医療センター (ペイン)

<週間予定表>

横浜市立大学附属市民総合医療センター麻酔 ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	手術室	休み	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
	残り番		当直				

- ・月～金の毎朝8時～8時30分 カンファレンス

4. 研修施設の指導体制と麻酔科管理症例数

- 群全体における 2020年度合計麻酔科管理症例数：101400症例
- 本研修プログラム全体における総専門研修指導医：約28人



【専門研修基幹施設】

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

〒232-0024 横浜市南区浦舟4-57 TEL：045-253-5355

(URL：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/urahp/>)

研修プログラム統括責任者： 佐藤 仁	佐藤 恵子 (臨床麻酔)
専門研修指導医：佐藤 仁 (臨床麻酔)	柳泉 亮太 (臨床麻酔/緩和ケア)
川上 裕理 (臨床麻酔)	早川 翔 (集中治療)
大塚 将秀 (集中治療)	
北原 雅樹 (パティクリニック)	専門医：遠藤 大 (臨床麻酔)
後藤 正美 (集中治療)	桑原 大輔 (臨床麻酔・心臓麻酔)
西岡 浩子 (臨床麻酔)	幸野 真樹 (臨床麻酔)
小島 圭子 (パティクリニック)	相原 環 (臨床麻酔)
内本 一宏 (集中治療)	中島 大介 (臨床麻酔)
宮崎 敦 (臨床麻酔)	淵田 瑛 (臨床麻酔)
増淵 哲仁 (臨床麻酔)	伊藤 慎也 (臨床麻酔)
美濃口 和洋 (臨床麻酔)	阿部 美蓉 (臨床麻酔)
藤井 ありさ (臨床麻酔)	武井 寛英 (臨床麻酔)
井上 玲美 (集中治療)	李 賢雅 (臨床麻酔/集中治療)
山口 嘉一 (集中治療)	

特徴：3次救命救急センターと神奈川県総合周産期センターの指定を受ける、横浜市中心部の大学附属病院で、救急（多発外傷、小児外傷など）、周産期（緊急帝王切開、産褥出血症例など）、循環器（大動脈解離、冠動脈再建術など）の症例が多い。ハイブリッド手術室をもち、TAVIも行っている。集中治療部は、麻酔科医の専属チームが常駐している。2017年度からは集学的慢性痛センターを開始している。

*593 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例：6108症例（2020年度）

特殊症例（2020年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	27
帝王切開術の麻酔	266
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	315
胸部外科手術の麻酔	139
脳神経外科手術の麻酔	110



【専門研修連携施設A】

公立大学法人 横浜市立大学附属病院

〒236-0004 横浜市金沢区福浦3-9 TEL：045-787-2918

(HP：<http://www.yokohama-cu.ac.jp/fukuhp/>)

研修実施責任者：後藤 隆久

専門研修指導医：後藤 隆久	(臨床麻酔)	水原 敬洋	(臨床麻酔)
水野 祐介	(臨床麻酔)	宮崎 智之	(臨床麻酔)
高木 俊介	(集中治療)	若山 洋美	(臨床麻酔)
入江 友哉	(臨床麻酔/心臓麻酔)	東條 彩子	(臨床麻酔)
岡村 健太	(臨床麻酔/心臓麻酔)	菊地 龍明	(臨床麻酔/医療安全)
松田 優子	(臨床麻酔)	専門医：菊池 賢	(臨床麻酔)
東條 健太郎	(臨床麻酔)	片倉 友美	(臨床麻酔/産科麻酔)
入澤 朋子	(臨床麻酔)	田中 宏幸	(臨床麻酔)
藤本 寛子	(臨床麻酔)	濱井 康貴	(臨床麻酔/心臓麻酔)
佐々木 誠	(臨床麻酔/心臓麻酔)	山本 さおり	(臨床麻酔/産科麻酔)
土屋 智徳	(臨床麻酔/ハ°インクリニック)	安西 晃子	(臨床麻酔)
横瀬 真志	(臨床麻酔/集中治療)	山本 夏啓	(臨床麻酔)
長嶺 祐介	(臨床麻酔)	奥 真哉	(臨床麻酔)
柏木 静	(臨床麻酔/集中治療)	堺 結有	(臨床麻酔)
吉田 輔	(臨床麻酔/集中治療)	平本 綾子	(臨床麻酔/産科麻酔)
横山 暢幸	(臨床麻酔/集中治療)	新井 悠介	(臨床麻酔)
		月永 晶人	(臨床麻酔/心臓麻酔)

特徴：大学病院本院にふさわしい大手術や、状態の悪い患者が多く、麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。神経ブロックも積極的に行っている。集中治療部は麻酔科の専属チームが常駐。臨床研究にも力を入れ、ヨーロッパ麻酔学会に毎年複数の演題を出している。手術室から東京湾が見え、近隣には八景島があるなど、最高の環境である。



*72 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例：5548 症例（2020年度）。

特殊症例（2020年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	51
帝王切開術の麻酔	95
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	148
胸部外科手術の麻酔	198
脳神経外科手術の麻酔	226

国立研究開発法人 国立循環器病研究センター

〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号 TEL 06-6170-1070

(URL : <http://www.ncvc.go.jp/>)

研修実施責任者：大西 佳彦	専門医：下川 亮 (心臓麻酔)
専門研修指導医：大西 佳彦 (心臓麻酔、経食道心エコー)	中野 雄介 (心臓麻酔)
吉谷 健司 (神経麻酔、脳脊髄機能モニタ)	森永 将裕 (心臓麻酔)
金澤 裕子 (心臓麻酔、低侵襲モニタ)	堀田 直志 (心臓麻酔)
南 公人 (集中治療、心エコー)	三浦 真之介 (心臓麻酔)
前田 琢磨 (心臓麻酔)	加澤 昌広 (心臓麻酔)

特徴：心臓大血管手術の症例数が多いことが特徴です。2018 年は 1208 症例の心臓大血管手術症例がありました。弁手術はダビンチロボット手術による僧帽弁形成術、小切開大動脈弁置換術、人工心肺を使用しない冠動脈バイパス術など低侵襲手術が増加しています。反対に重症心不全に対する左室補助装置装着術や心臓移植術、大動脈解離に対する緊急弓部グラフト置換術などリスクの高い症例も多くあります。カテーテル治療としてハイブリッド手術室でカテーテル大動脈弁置換術や僧帽弁形成術、大動脈ステント留置術が多く施行されています。脳血管外科手術症例、産科症例も多く施行されています。小児心臓手術や新生児姑息術も多く施行されています。

*168 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2384症例 (2020年度)

特殊症例 (2020年度)	施設年間症例数
小児 (6歳未満) の麻酔	59
帝王切開術の麻酔	89
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	1124
胸部外科手術の麻酔	0
脳神経外科手術の麻酔	253



国立研究開発法人国立成育医療研究センター

〒157-0074 東京都世田谷区大蔵2-10-1 TEL：03-3416-0181

(URL：<http://www.ncchd.go.jp/>)

研修実施責任者：鈴木 康之

専門研修指導医：鈴木康之（小児麻酔・集中治療）

大原玲子（産科麻酔）

糟谷周吾（小児麻酔・救急）

佐藤正規（産科麻酔）

蜷川純（小児麻酔）

山下陽子（産科麻酔）

行正翔（小児麻酔）

馬場千晶（小児麻酔）

宮坂清之（小児麻酔）

古田真知子（小児麻酔）

松永渉（小児麻酔）

橋谷舞（小児麻酔）

浦中誠（小児麻酔）

阿部真友子（小児麻酔）

伊集院亜梨紗（小児麻酔）

専門医：時任剛志（小児麻酔）

竹内洋平（小児麻酔）

清水 薫（麻酔・集中治療）

一柳弘希（小児麻酔）

特徴：・国内最大の小児・周産期施設であり、胎児、新生児、小児、先天性疾患の成人麻酔、産科麻酔

（無痛分娩管理を含む）および周術期管理を習得できる。

・国内最大の小児集中治療施設を有し、小児救急疾患・重症疾患の麻酔・集中治療管理を習得できる。

・小児肝臓移植（生体、脳死肝移植）、腎移植の麻酔、周術期管理を習得できる。

・小児がんセンターがあり、小児緩和医療を経験できる。

・臨床研究センターによる臨床研究サポート体制があり研究環境が整っている。



*87 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4670症例

特殊症例（2020年度）	施設年間症例数
小児（6歳未満）の麻酔	2195
帝王切開術の麻酔	700
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	129
胸部外科手術の麻酔	17
脳神経外科手術の麻酔	179

独立行政法人国立病院機構 横浜医療センター

〒245-8575 神奈川県横浜市 戸塚区原宿 3-60-2 TEL:045-851-2621

(URL: <http://www.yokohama-mc.jp/>)

研修実施責任者 山田 宏

専門研修指導医：鈴木 宏昌 (臨床麻酔)

山田 宏 (臨床麻酔)

菅原 泰常 (臨床麻酔)

大川 卓 (臨床麻酔)

宮崎 弘志 (集中治療)

専門医：黒木 洋子 (臨床麻酔)

野島 優佳 (臨床麻酔)

桑原 香折 (臨床麻酔)



特徴：横浜市西部の中核病院。成人症例の麻酔であれば大部分の領域を経験可能です。

*1300 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 3307 症例 (2020 年度)

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター

〒232-0066 神奈川県横浜市南区六ツ川 2-1 38-4 TEL: 045-711-2351

(URL: <http://kcmc.kanagawa-pho.jp/>)

研修実施責任者： 中村 信人

専門研修指導医：中村 信人 (小児麻酔)

宮本 義久 (小児麻酔)

蜂屋 好子 (小児麻酔)

山口 恭子 (小児麻酔)

青木 真理子 (小児麻酔)

堀木 としみ (小児麻酔)

専門医：小林 憲弥 (小児麻酔)

鴻池 利枝 (小児麻酔)

大清水 みお (小児麻酔)

特徴：当院の手術室では小児の外科分野全科の手術を行っています。新生児症例や小児心臓血管外科の症例も豊富で小児麻酔を広く経験できます。外科各科やNICU、ICUとの連携、関係は良好ですので周術期の管理についても深く学ぶ事が可能です。



*88 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2841 症例 (2020 年度)

横須賀市立市民病院

〒240-0195 神奈川県横須賀市長坂1丁目3-2 TEL：046-856-3136
(URL：<http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/yokosuka-shimin/html/>)

研修実施責任者：野瀬 浩文

専門研修指導医：野瀬 浩文 (麻酔)

北村 俊治 (麻酔)



特徴：三浦半島西海岸地区の地域医療の中心病院

*453 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 1103症例 (2020年度)

独立行政法人 労働者健康福祉機構 横浜労災病院

〒222-0036 神奈川県横浜市 港北区小机町3211 045-474-8111

(URL：<http://www.yokohamah.rofuku.go.jp/>)

専門研修指導医：越後 憲之 (麻酔)

水谷 健司 (麻酔)

曾我 広太 (麻酔)

高杉 直哉 (麻酔)

北林 亮子 (麻酔)

西澤 英雄 (集中治療)

藤本 潤一 (集中治療)

七尾 大観 (集中治療)

専門医：近藤 有理子 (麻酔)

吉川 菜々子 (麻酔)

光田 慧吾 (麻酔)

大和田 玄 (集中治療)

木村 康宏 (集中治療)



特徴：当院は年間約5000件の麻酔管理症例に対し13名の専門医が在籍しています。手術は大手術から小手術まで多岐にわたっています。また、救命救急センターや集中治療室を併設し、急性期に特化した病院となっています。初期研修医は全国から集まり、多くの診療科をローテートするため、どの診療科も活気に満ち溢れ、好循環をもたらしています。

*604 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4446症例 (2020年度)

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

〒235-0012 神奈川県横浜市 磯子区滝頭1丁目2-1 tel:045-753-2500
(URL : <http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou/>)

研修実施責任者：坂井 誠
専門研修指導医：坂井誠（臨床麻酔）
小林浩子（臨床麻酔）



特徴：脳卒中急性期から回復リハビリ期までの専門病院。

- *1705 研修委員会認定病院取得
- *施設麻酔科管理症例702 症例（2020年度）

恩賜財団 済生会 横浜市南部病院

〒234-0054 神奈川県横浜市港南区港南台3丁目2-10 TEL：045-832-1111
(URL : <http://www.nanbu.saiseikai.or.jp/>)

研修実施責任者：横山 香織(麻酔)
専門研修指導医：横山香織（麻酔）
工藤真里（麻酔）
平井明子（麻酔）
永井絵里（麻酔）

専門医：土屋 裕子（麻酔）
村田 志乃（麻酔）
大熊 歌奈子(麻酔)
堤 裕美子（麻酔）



特徴：市中病院としてほとんど全ての外科系診療科があり、多種多様な術式の麻酔経験ができます。

- *361 研修委員会認定病院取得
- *施設麻酔科管理症例 3280症例（2020年度）

社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院

〒240-0023 神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町215 TEL：045-715-3111
(URL：<http://www.seirei.or.jp/yokohama/>)

研修実施責任者：木下 真弓

専門研修指導医：木下真弓 (A° イソクリック、緩和、麻酔)

千葉 桃子 (A° イソクリック、麻酔)

岡田 律子 (A° イソクリック、麻酔)

佐藤 理恵 (麻酔、緩和)

柏木 里恵子 (麻酔)

山内 千世里 (麻酔)

高橋 紗緒梨 (麻酔、緩和)



特徴：横浜市西部の、急性期から緩和まで幅広く行う病院です。一般的な手術麻酔、外来及び入院にて透視下の神経ブロック等が行えるペインクリニック、2020年8月より開棟した緩和ケア病棟で緩和ケアを経験できる施設です。

*1325 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 1103症例 (2020年度)

国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院

〒254-8502 神奈川県平塚市 追分9-11 TEL：0463-32-1950
(URL：<http://www.kkr.hiratsuka.kanagawa.jp/>)

研修実施責任者：渡辺 美佳

専門研修指導医：渡辺 美佳(臨床麻酔)

松尾 慶子 (臨床麻酔)

三上 敦子 (臨床麻酔)

吉岡 征夫 (臨床麻酔)

特徴：平塚市の中核病院で、心臓血管外科・胸部外科・脳神経外科がバランス良く経験できます

*652 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2273症例 (2020年度)



藤沢市民病院

〒251-8550 神奈川県藤沢市藤沢 2-6-1 TEL：0466-25-3111
(URL：<http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/hospital/>)

研修実施責任者：近藤 竜也

専門研修指導医：近藤 竜也(臨床麻酔)

佐伯 美奈子(臨床麻酔)

中易 夏子(臨床麻酔)

山口 佳子(臨床麻酔)

専門医：中村 綾(臨床麻酔)

佐藤 大樹(臨床麻酔)

野村 友紀子(臨床麻酔)

横瀬 千枝(臨床麻酔)

仲村 清貴(臨床麻酔)

特徴：地域の中核病院として外傷性疾患も多く集まり、

特に整形外科領域では、超音波ガイド下末梢神経ブロックを多く取り入れ、早期離床、入院期間の短縮化に努めています。

ペインクリニックも常設し、大学と連携しペインクリニックを指導できる人材の教育を目指しています。



*219 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4008症例 (2020年度)

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

〒241-0815 神奈川県横浜市旭区中尾 2-3-2 TEL：045-520-2222
(URL：<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>)

研修実施責任者：佐々木 俊郎

専門研修指導医：藤田 久栄(臨床麻酔)

佐々木 俊郎(臨床麻酔)

高野 修身(麻酔・集中治療)

南 俊孝(臨床麻酔)

桐山 昌子(臨床麻酔)

太田 周平(臨床麻酔)

越後 結香(臨床麻酔)

古賀 資和(臨床麻酔)

寺山 祥子(臨床麻酔)

桑田 玲子(臨床麻酔)



特徴：神奈川県のがん診療の拠点病院であり、胸部手症例が豊富。指導者層が厚く丁寧な指導が行えます。緩和ケアの研修も可能です。

*242 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 3384症例 (2020年度)

国際医療福祉大学 熱海病院

〒413-0012 静岡県熱海市東海岸町1-3-1 TEL:0557-81-9171
(URL : <http://atami.uhwa.ac.jp/>)

研修実施責任者：伊藤 英基
専門研修指導医：伊藤 英基 (臨床麻酔)
石和 大 (臨床麻酔)
辻 和馬 (臨床麻酔)



特徴：静岡県熱海市の中核病院。
地域医療に対する理解を深めることができる。症例は「腎移植が比較的多く、全国でも珍しい内臓の肉腫手術がある。」

*1177 研修委員会認定病院取得
*施設麻酔科管理症例 1176症例 (2020年度)

財団法人同友会 藤沢湘南台病院

〒252-0802 神奈川県藤沢市高倉2-3-4-5 TEL : 0466-44-1451
(URL : <http://www.fj-shonandai.jp/>)

研修実施責任者：原田 高志
専門研修指導医：原田高志 (臨床麻酔) 山田淳子 (臨床麻酔)
浅田美恵子 (臨床麻酔) 宮下仁子 (臨床麻酔)
櫻井亜沙子 (臨床麻酔) 福地萌香 (臨床麻酔)
坂本彩加 (臨床麻酔)



特徴：藤沢市の私立中堅病院。
先進的な経営スタイルに特徴がある。
病床数あたりの麻酔科管理手術件数としては、関連病院の中でも多い。充実した指導が受けられます。

*1093 研修委員会認定病院取得
*施設麻酔科管理症例 2576症例 (2020年度)

大和市立病院

〒242-0018 神奈川県大和市深見西8丁目3-6 TEL：046-260-0111
(URL：<http://www.yamatocity-mh.jp/>)

研修実施責任者：工藤 一大

専門研修指導医：工藤一大(臨床麻酔)

井上素樹(臨床麻酔)

渡邊潤子(臨床麻酔)

川崎理栄子(臨床麻酔)

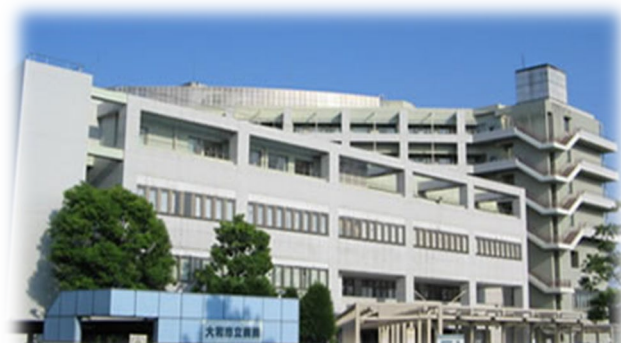
石川玲利(臨床麻酔)

専門医：江見真理子(臨床麻酔)

特徴：大和市の中核病院で、地域医療に対する理解を深めることができる。
産婦人科症例の多い病院。末梢側の血管、血管内手術が増加している。

*500 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2381症例(2020年度)



茅ヶ崎市立病院

〒253-0042 神奈川県茅ヶ崎市本村5丁目15-1 TEL：0467-52-1111
(URL：<http://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp/>)

専門研修指導医：福山 宏(臨床麻酔・集中治療・救急医療)

岡部 雪子(臨床麻酔)

塩田 将(臨床麻酔)

専門医：澄田 奏子(臨床麻酔)

特徴：茅ヶ崎市の中核病院で、地域医療に対する理解を深めることができる。
緊急手術が麻酔科管理症例の15%を占める。集中治療・救急への関与も可能。

*406 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2027症例(2020年度)



地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院

〒258-0003 神奈川県足柄上郡松田町松田惣領866-1 TEL:0465-83-0351
(URL : <http://ashigarakami.kanagawa-pho.jp>)

研修実施責任者： 大塚 立夫
専門研修指導医： 大塚 立夫 (麻酔)

特徴：神奈川県西部の地域医療を担う病院。地域医療に対する理解を深めることができる。

*369 研修委員会認定病院取得
*施設麻酔科管理症例 851症例 (2020年度)



埼玉県立小児医療センター

〒339-8551 埼玉県さいたま市岩槻区大字馬込2100番地 TEL : 048-758-1811
(URL : <https://www.pref.saitama.lg.jp/scm-c/>)

研修実施責任者： 蔵谷 紀文
専門研修指導医： 蔵谷 紀文 (小児麻酔)
濱屋 和泉 (小児麻酔)
佐々木 麻美子 (小児麻酔)
大橋 智 (小児麻酔)
石田 佐知 (小児麻酔)

駒崎真矢 (小児麻酔)
古賀 洋安 (小児麻酔)
河邊 千佳 (小児麻酔)

特徴：平成28年末にさいたま新都心に
新設移転しました。
交通至便。令和元年より生体肝移植を開始。

*399 研修委員会認定病院取得
*施設麻酔科管理症例 3187症例 (2020年度)



順天堂大学医学部附属順天堂医院

〒113-0033 東京都文京区本郷3-1-3 TEL : 03-3813-3111

(URL : <http://www.juntendo.ac.jp/hospital/>)

研修実施責任者：林田真和

専門研修指導医：

林田真和（心臓血管外科麻酔）
西村欣也（小児麻酔）
井関雅子（ペインクリニック、緩和ケア）
佐藤大三（麻酔全般、集中治療）
角倉弘行（産科麻酔）
水野 樹（麻酔全般）
石川晴士（胸部外科麻酔・術前外来）
三高千恵子（集中治療）
川越いつみ（呼吸器外科麻酔）
竹内和世（麻酔全般・小児麻酔）
原 厚子（脳神経外科麻酔）
工藤 治（麻酔全般）
千葉聡子（ペインクリニック）
山本牧子（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
掛水真帆（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
菅澤佑介（麻酔全般・心臓血管外科麻酔）
岡原祥子（産科麻酔）
須賀芳文（産科麻酔）
片岡久実（麻酔全般・小児麻酔）
河合愛子（ペインクリニック）
黒澤暁子（麻酔全般）
門倉ゆみ子（麻酔全般）

専門医：

濱岡早枝子（ペインクリニック）
鈴木博子（ペインクリニック）
清水礼佳（ペインクリニック）
岩野雄一（産科麻酔）
河内山宰（麻酔全般）
新見奈央子（麻酔全般）
林 愛（麻酔全般）
櫻谷初奈（麻酔全般）
岸井 絢（麻酔全般）
結束さやか（麻酔全般）



*1 2 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 9762症例（2020年度）

特徴：各診療科の手術数が多く最先端医療の導入にも積極的であるため、豊富な麻酔症例を経験できる。ペインクリニック、緩和ケア、集中治療、産科麻酔（無痛分娩・帝王切開）の長期・短期のローテーションも可能である。多職種で構成される包括的な術前外来も整備され、麻酔安全面へ大きく寄与している。

医療法人社団 公仁会 大和成和病院

〒242-0006 神奈川県大和市南林間 9-8-2 TEL: 046-278-3911
(URL: <http://www.fureai-g.or.jp/seiwa/index.html>)

研修実施責任者: 米谷 聡

専門研修指導医: 米谷 聡 (心臓麻酔/集中治療)

特徴: 成人心臓血管外科手術の麻酔と、
ICU 術後管理を経験、学ぶことができます。

*1197 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 503症例 (2020年度)



社会医療法人財団石心会 川崎幸病院

〒212-0014 神奈川県川崎市 幸区大宮町 31-27 TEL:044-544-4611
(URL: <http://saiwaihp.jp/>)

研修実施責任者: 高山 渉

専門研修指導医: 高山 渉(麻酔・心臓麻酔) 原田 昇幸 (麻酔・心臓麻酔)

迫田 厚志 (麻酔・心臓麻酔) 甘利 奈央 (麻酔・心臓麻酔)

関 周太郎 (麻酔・心臓麻酔)

専門医: 戸谷 遼(麻酔・心臓麻酔)

特徴: 全国でも TOP の件数の胸部・胸腹部大動脈手術実施実績があり、麻酔科専門医育成の上では、多くの心臓血管外科手術の麻酔を経験できることが最大の特徴です。特に胸腹部大動脈瘤手術を当院ほど数多く経験できる施設は多くは存在しないと考えます。更に昨年度からは従来の胸腹部大動脈手術に加え、僧帽弁・大動脈弁の置換のみならず形成術、オフポンプCABGやTAVRなどの心臓手術も実施され、心臓血管外科領域の症例数は1200を超えました。これは心臓外科領域全体でも全国TOPに近い件数です。また緊急手術も多いため、管理にも多様なバリエーションがあり、専門医教育施設として今後も発展できると考えています。



*1480 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4059症例 (2020年度)

東京女子医科大学病院

〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 TEL : 03-3353-8111

(URL : <http://www.twmu.ac.jp/info-twmu/index.html>)

研修実施責任者：長坂 安子

専門研修指導医：長坂 安子（麻酔）	野村 実（麻酔）
尾崎 恭子（麻酔）	黒川 智（麻酔）
岩出 宗代（麻酔、ペインクリニック）	近藤 泉（麻酔）
横川 すみれ（麻酔）	濱田 啓子（麻酔）
庄司 詩保子（麻酔）	岩田 志保子（麻酔）
佐久間 潮里（麻酔）	土井 健司（麻酔）
中澤 圭介（麻酔）	古井 郁恵（麻酔）
三好 ふたば（麻酔）	石川 高（麻酔）
福島 里沙（麻酔）	神谷 岳史（麻酔）
野村 岳志（集中治療）	中川 淳哉（集中治療）
石川 淳哉（集中治療）	
清野 雄介（集中治療）	
佐藤 暢夫（麻酔、集中治療）	
出井 真史（集中治療）	
専門医：原村 陽子（麻酔）	長谷川 晴子（麻酔）
継 容子（麻酔）	津久井 亮太（麻酔）
佐藤 碧星（麻酔）	浅野 麻由（麻酔）
森脇 翔太（麻酔）	林 千晴（麻酔）
山本 偉（麻酔）	山本 舞（麻酔）
幸野 真樹（集中治療）	

特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修、集中治療・ペインクリニック・緩和の研修も可能です。心臓麻酔研修は特に力を入れており、心臓麻酔専門医の取得も可能です。多種の臓器移植（心臓・肝臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理、エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します。

(ICU) 東京女子医科大学集中治療科は2021年度に小児集中治療チームが加わり、成人チームと小児チームが連携して、シームレスに成人集中治療室（2F-ICU）18床と小児集中治療室（PICU）8床の重症患者管理を行っております。両集中治療室で管理する症例は臓器移植術後、先天性心疾患を含む心臓大血管手術後、脳神経外科や消化器外科などの難しい術後管理が有する患者さん、また治療中に発症した重症肺炎や敗血症など重症臓器障害の患者さんで、年間約1500症例となります。多様な病態の重症患者が多いため、麻酔科はじめ多くの診療科と協力して治療を行います。成人チームの多くは麻酔科専門医であり周術期の場合には麻酔科とシームレスな連携が可能です。また新しくできる集中治療科小児チームとの連携でPICUの研修を行うことも可能となります。小児から成人まで多様な重症病態の治療に関わりながら、技術的には超音波診断技術やECMO導入など多彩な研修が行えます。また他大学・病院とのネットカンファレンスなども行っており有用な研修が行える環境を作っています。

*32 研修委員会認定病院取得

²¹*施設麻酔科管理症例 6855症例（2020年度）

国際医療福祉大学 三田病院

〒108-8329 東京都港区三田1-4-3 TEL: 03-3451-8121

(URL: <http://mita.iuhw.ac.jp/>)

研修実施責任者: 馬場 靖子

専門研修指導医: 宮下 徹也 (臨床麻酔、救急) 専門医: 有本 遥 (臨床麻酔)

馬場 靖子 (臨床麻酔)

玉井 三希子 (臨床麻酔)

加治 真由 (臨床麻酔)

特徴: 産科はなく、小児症例は、先天性感音性難聴にたいする人工内耳植え込み術が多い。

2021年になり心臓血管手術が増加しており、月に4-6例程度の開心術がある。

頭頸部腫瘍外科があり、困難気道症例が多い。

* 認定病院番号: 62

* 施設麻酔科管理症例: 2178 症例 (2020年度)

国際医療福祉大学 成田病院

〒286-0124 千葉県成田市畑ヶ田 852 TEL: 0476-35-5600

(URL: <https://naritahospital.iuhw.ac.jp>)

研修実施責任者: 倉橋 清泰

専門研修指導医: 倉橋 清泰 (臨床麻酔) 花崎 元彦 (臨床麻酔)

稲垣 喜三 (臨床麻酔) 木下 陽子 (臨床麻酔)

河野 達郎 (臨床麻酔) 内山 宗人 (臨床麻酔)

特徴: 2020年に開院した。敷地面積15万平米超 (東京ドーム2個分以上)、成田空港に近接する642床の病院。新しいコンセプトが詰まったオペ室、ICU、外来スペースを擁する。

開院以来患者数は右肩上がりです。現在は感染症蔓延のため入国制限となっているが、近い将来海外から多くの患者も受け入れる予定。対応言語4カ国。

2021年度中に集中治療医学会集中治療専門医研修施設認定、日本ペインクリニック学会指定研修施設認定、日本呼吸療法医学会専門医研修施設認定をそれぞれ取得の予定。

集中治療の研修は必須とする。それぞれ将来の希望に応じて集中治療、ペインクリニック、小児麻酔、心臓血管麻酔などの長期間/アドバンストの研修ができる。

認定病院番号: 1952

施設麻酔科管理症例: 1755 症例 (2020年度)

【専門研修連携施設B】

横浜市立市民病院

〒221-0855 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢西町1番1号 TEL:045-316-4580
(URL : <http://yokohama-shiminhosp.jp/>)

研修実施責任者：伊奈川 岳

専門研修指導医：伊奈川 岳 (臨床麻酔)

速水 元 (集中治療)

刈谷 隆之 (集中治療)

坪井 さやか (臨床麻酔)

専門医：吉田 恵 (臨床麻酔)

森繁 秀太 (臨床麻酔)

末竹 荘八郎 (臨床麻酔)

廣富恵里奈 (臨床麻酔)

春原啓人 (臨床麻酔)

特徴：横浜市の中心部に位置する地域中核病院。
救命センターをはじめとし多くの診療科を持ち
幅広い疾患に対する研修ができる。炎症性腸疾患
科を有しクローン病・潰瘍性大腸炎患者の手術も

* 596 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4291症例 (2020年度)



国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院

〒236-0037 神奈川県横浜市金沢区六浦東1-21-1 TEL: 045-782-2101
(URL : <http://www.minamikyousai.jp/>)

研修実施責任者：渡辺 至

専門研修指導医：渡辺 至 (臨床麻酔/区域麻酔)

柳 大介 (臨床麻酔)

高寺 恭子 (臨床麻酔)

専門医：明石 裕里 (臨床麻酔)

岡本 理沙子 (臨床麻酔)

朝垣 萌 (臨床麻酔)



特徴：区域麻酔に特に力を入れ、
年間1000例に及ぶ神経ブロックをこなす。

* 377 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 4650症例 (2020年度)

国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

〒238-0011 神奈川県横須賀市米が浜通1丁目16 TEL:046-822-2710
(URL : <http://www.ykh.gr.jp/>)

研修実施責任者：住友 正和

専門研修指導医：住友正和 (臨床麻酔)

小橋帝生 (臨床麻酔)

大田まりあ (臨床麻酔)

内藤梨菜 (臨床麻酔)

濱田貴子 (臨床麻酔)

専門医：後藤美咲 (臨床麻酔)

木田達也 (臨床麻酔)

特徴：豊富な手術麻酔症例あり。

*616 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 5196 症例 (2020年度)



千葉県こども病院

〒266-0007 千葉県千葉市緑区辺田町579-1 TEL : 043-292-2111
(URL : <http://www.pref.chiba.lg.jp/kodomo/>)

研修実施責任者：原 真理子

専門研修指導医：原 真理子(麻酔/集中治療、小児麻酔)

専門医：松尾 史郎 (麻酔)

特徴：千葉県の小児医療の中心施設。

小児のTIVA(全静脈麻酔)を盛んに行っている。臨床研究にも力を入れている。



*521 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 1535症例 (2020年度)

東日本電信電話株式会社 NTT 東日本関東病院

〒141-0022 東京都品川区東五反田5-9-22 TEL : 03-3448-6111
(URL : [https:// www.ntt-east.co.jp/kmc/](https://www.ntt-east.co.jp/kmc/))

研修実施責任者：安部 洋一郎(ペインクリニック科)
専門研修指導医：安部 洋一郎(ペイン)

特徴：本プログラムでは、ペインクリニックの研修を行う。
神経ブロックによるペインクリニック診療で、日本一の症例数を誇る病院。

*35 研修委員会認定病院取得



かわぐち心臓呼吸器病院

〒333-0842 埼玉県川口市前川1-1-51 TEL : 048-264-5533
(URL: <http://www.kheartlung.jp>)

研修実施責任者：能見 俊浩
専門研修指導医：能見 俊浩(臨床麻酔)
上田 桂子(臨床麻酔)



*21601834 研修委員会認定病院取得
*施設麻酔科管理症例 336症例(2020年度)

静岡県立こども病院

〒420-8660 静岡県静岡市葵区漆山 860 TEL : 054-247-6251
(URL: <http://www.shizuoka-pho.jp/kodomo/>)

研修実施責任者：奥山 克巳

専門研修指導医：奥山 克巳 (臨床麻酔)

渡邊 朝香 (臨床麻酔)



*183 研修委員会認定病院取得

*施設麻酔科管理症例 2686症例 (2020年度)

5. 募集希望定員：4名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、横浜市立大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。プログラムは横浜市立大学附属病院麻酔科専門医プログラムとほぼ同一のプログラム(基幹施設のみが異なる)のため、横浜市立大学附属病院(下記)への問い合わせも可能である。

横浜市立大学附属市民総合医療センター麻酔科 講師・部長

佐藤仁(さとう ひとし)

事務担当：伊藤慎也

秘書：佐々木潔子

〒232-0024 横浜市南区浦舟町4丁目57番地

TEL：045-253-5355 (麻酔科直通)

FAX：045-253-5705

代表Mail：anesecre@yokohama-cu.ac.jp

横浜市立大学附属病院 麻酔科 教授

後藤隆久(ごとう たかひさ)

総医局長：長嶺祐介

事務担当：松田優子

秘書：武田成美

〒236-0004 横浜市金沢区福浦 39

TEL：045-787-2918 (麻酔科直通)

FAX：045-787-2916

横浜市立大学麻酔科HP：<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~masuika/>

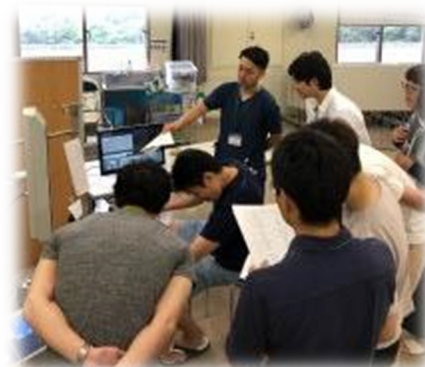
代表Mail：anesthes@yokohama-cu.ac.jp



見学も随時受け入れております。

説明会・セミナーなどもの参加も大歓迎です！お気軽にご連絡ください。

HPからのお問い合わせも可能です！



6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果(アウトカム)

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性**に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた**経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動**の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた 1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。



8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

★専門研修 1 年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。胸部外科手術・脳神経外科手術・帝王切開手術の経験も積む。

★専門研修 2 年目

1年目で修得した技能・知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと安全に行うことができる。これに加え、心臓外科手術を経験し、さまざまな重症症例の周術期管理を指導医のもと安全に行うことができる。

★専門研修 3 年目

小児手術を経験し、指導医のもと安全に行うことができる。また、集中治療・救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

★専門研修 4 年目

これまでの経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、専攻医研修実績フォーマット、研修実績および到達度評価表、指導記録フォーマットをもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、神奈川県地域医療の中核病院としての横須賀共済病院、藤沢市民病院、藤沢湘南台病院、平塚共済病院、神奈川県立足柄上病院など幅広い連携施設が入っている。また、麻酔科医数が全国平均より相当程度少ない千葉県、埼玉県、静岡県にも連携施設をもつ。これらの病院の多くは充分数の指導医がいるが、指導医の少ない施設に対しては、大学から麻酔科学会専門医レベル以上の医師を定期的に派遣する。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなる。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とし、プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮する。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導する。

